

会 議 録

会議名称	第3回 豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会
日 時	平成31年1月29日（火） 15:00～17:00
会 場	豊岡市役所 大会議室（2階）
出席者	〔委員〕 藤野委員長、田村副委員長、杉山委員、碓井委員、平岡委員、赤澤委員、樋口委員、與田委員、木村委員、大西委員、平田委員 〔事務局〕 桑井地域コミュニティ振興部参事、木下文化振興課長、小川文化振興課(市民会館)参事、田中係長 (株)シアターワークショップ 伊東、佐藤、田中
欠席者	〔委員〕 宮下委員
議題等	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会（あいさつ） 2 前回委員会の確認 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市民意見の収集状況について <ol style="list-style-type: none"> ア 関係団体ヒアリング イ 市民ワークショップ ウ 市民アンケート調査 (2) 市内のホールの現状整理および新文化会館の方向性（案）について (3) 新文化会館整備基本構想スケジュール（案）について (4) 新文化会館整備基本構想（素案）について (5) その他 4 その他 5 閉会
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会次第 ・豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会（第3回）資料 ・豊岡市新文化会館整備基本構想（素案） ・豊岡市新文化会館整備基本構想（素案）への意見用紙
次回会議	平成31年3月18日（月）

〈審議結果は次のとおり〉

1 開 会（あいさつ）〔藤野委員長〕

超少子高齢化となっていく中で、特に都市部から離れた場所で、いかに持続可能な公共文化施設を作っていくのかということが深刻な課題である。

まちづくりと連携し、まちの経済を活性化する役割を担わない限り、持続可能な文化施設を維持することは出来ない時代となってくる。例えば、ホール内にレストランを入れることによってまちの飲食店に打撃を与える可能性がある。そうしたことも念頭に構想を広げて行く必要がある。

2 前回委員会の確認

第2回策定委員会において、委員から出された意見等を報告

3 協議事項

(1) 市民意見の収集状況について

○昨年11月29日に市民3,000人を対象に実施した市民アンケート結果【資料P9～P40】について報告

【質疑応答・意見交換】

発言者	意 見 等
委 員	・資料P20<地域別×文化芸術活動>のグラフについて、竹野と但東で活動を「行っている」の割合が高くなっている背景は何か。出石には永楽館があるなどでイメージできるが、この2地区については疑問。
委 員	・活動に際し、どのような施設を使うのか。
委 員	・但東は京都との府県境に近いので、1時間程度かけて豊岡まで出るのではなく、地元で活動したいという気質があるのではないかと。
委 員	・但東市民センターのホールなどを利用するが、規模は200席程度。練習を地元で行い、発表する際はひぼこホールなどを利用。
委 員	・但東とひぼこホールではどのくらい施設に差があるのか。
委 員	・但東ではバレーは出来ない。客席規模も2倍程度の差がある。
委 員	・竹野の文化活動について、竹野ではコミュニティセンターが3カ所あり、それぞれが文化活動をする。ただし、1つの会場についても100人～200人程度の小規模なもの。
委 員	・アンケート対象者が偶然文化活動をしている人だったのではないかと。また、「習字」なども広く文化活動として解釈されて文化活動として反映されているのではないかと。
委員長	・アンケート対象者において「文化」という言葉の中に「習字」や「祭り」なども入ると解釈されることはあるか。祭りなどは特に盛んな地域もあり、芸術活動が少なくても回答者数が増えることに繋がらないかと。
事務局 (TWS)	・今回文化活動の細かいジャンルの指定はしていないため、そのような可能性もありえる。
委員長	・竹野の数値について、細かい所まではこだわらないことにする。
事務局 (TWS)	・資料P33新施設の<望ましいホール規模>について、この項目だけ無回答率が特に多い(40%近い)点が気になる。この結果をどのように解釈するか。
事務局 (TWS)	・推測だが、文化活動をしない人が無回答にしている可能性はないかと。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の年齢層が非常に高い。「新施設に望むこと」の項目も、40代以上の意見が強く反映されている。この項目の年代別の結果を知りたい。これから使う若い世代の意見を知りたい。
事務局 (TWS)	<ul style="list-style-type: none"> 調査する。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 資料P20の〈年代別×文化芸術活動〉のグラフに顕著に表れている。20代、30代の数字が極端に低くなっているが、リタイア後に大きく上昇する。将来メインユーザーになる20代、30代の意見は、母数が少ないながらも反映しなければならない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> この結果は、若い世代が文化活動をしていないという意味ではない。若い世代に適した文化活動がないために、Iターン・Jターン・Uターン現象が起きていないという意味だ。Iターン・Jターン・Uターンを呼び込むためには、若い世代に適した文化活動を行わなければならない。地方創生的観点から、豊岡市の生存をかけた戦略の一環として、文化活動というものを考えていかなければいけない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 資料P16〈世代別×鑑賞ジャンル（複数回答）〉の項目において、19歳以下及び20代の「舞踊」が0%なのはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「ダンス」と表記しなかったことが原因かと思われる。また、城崎にてコンテンポラリーダンスをしているが、親子連れの親がアンケートに答えている為かと思われる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 対象の配分について、人口分布に沿わずに偏差をかけることで若い世代の調査母数を増やすべきだった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 軽音楽が0%であることや、演劇が100%でないことなどからも、19歳以下の統計的信頼は薄いと思われる（演劇鑑賞会は全員参加しているはず）。
事務局 (TWS)	<ul style="list-style-type: none"> 実際、母数は非常に少ない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 文化協会の構成年齢が非常に高くなっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 但東の文化協会も同じ状況である。若い世代が忙しすぎるという状況がある。但馬の中学校は部活全員入部、そして部活最優先である。バレエ教室においても、部活後に欠席者のフォローをしながらレッスンをしている状況である。 勉強・部活に加えて芸術活動まで習うのは、子ども達にとって負担が大きくなりすぎてしまう。若い世代の芸術活動を促す名目でホールを作るなら、但馬の子どもに選択権という余裕を持たせるべきだ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 但東では厳しいかもしれないが、全域的に見ると全員部活入部ではない。また体育系や文化系など選択もある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 傾向として部活を減らす流れはあるが、保護者から部活をしてくれという要求があるという側面もあり、部活の問題を一面的に考えることは出来ない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 学校外の活動について、親が子どもを締め付けて忙しくなっている事例もある。

(2) 市内のホールの現状整理および新文化会館の方向性（案）について

○ 第2回策定委員会で資料要求があった、劇場・ホールの建設費、施設規模について説明

・近年建設された7ホールの建設費を平均した結果74万円程度になった。そこに増税後の消費税を加味すると、平均額は82万円近くになる。鶴岡市文化会館が平均額を引

き上げているが、70万円/㎡の予算では厳しい。

- ・また、資料に載っているのは落札額であることに注意が必要である。通常設計価格に比べて落札額は低い。加えて物価上昇によって価格が高めに設定されることもあるため、実際にはもう少し予算が必要になると思われる。とはいっても、あまり悲観的になる必要は無い。
- ・大ホール、小ホール、リハーサル室を全て揃える必要があるか。席数と延床面積は必ずしも対応しない。

【質疑応答・意見交換】

発言者	意見等
委員 事務局 (TWS)	<ul style="list-style-type: none"> ・太田市民会館は設備が豊かにもかかわらず、平米単価もかなり安くなっている。どうしてか。 ・細かい分析は出来ていないが、香山壽夫氏の建築によるためだと思われる。香山氏は材料の使い方や予算の使い方も上手い。彼の建築では、舞台の裏側は機能を重視しお金をかけないようにするなど、使いわけが徹底されている。 ・太田市民会館においては、ホワイエの床をコンクリートのままにしておくなど、材料費を抑えたシンプルな造りにしている。
委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・質実剛健なイメージを持った。 ・今回は、ホールのスペックの方向性を決め、基本構想に向けた足がかりにしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールにカフェや喫茶店を併設するか否かを、具体的に決めた方が考えやすい。ホールは公共交通機関のアクセスが悪く、駐車場も必ずある。そのような立地では地元の商店街などに人が流れるとは考えにくく、ホール内のカフェ・喫茶店が必須になるのではないか。
委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では何も決まっていけないのではないか。 ・豊岡市新文化会館整備基本構想（素案）P38について。今年度は内容の構想に費やし、来年度1年かけて建設場所等を選定するため、まだ何も決められる状況ではない。今回の構想では何も示さない。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・承知した。 ・豊岡市新文化会館整備基本構想（素案）P38に誤植有。誤）現有私有財産 →正）現有市有財産
委員 事務局 (TWS)	<ul style="list-style-type: none"> ・セパレートシステムについて。客席を隠すというのは、実際に見えなくなると言う事か。壁や天井が動くというイメージなのか。 ・壁や天井が動くというホールもあるが、予算やメンテナンスなど、コストが高い。そのため、客席照明によって目線から切るというシステムを検討している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県立芸術劇場（KAAT）ではPAを入れずに1200人規模のホールで公演が成功した。そこでは600席を敢えて閉鎖し、演者3人と観客600人のみでの公演が成立しており、セパレートシステムを導入する可能性を感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・A～E案において。大ホール+小ホールがあった方が良いとの思いはあるが、小ホールは市民プラザで機能を代替できるため、大ホール+リハーサル室が良いのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市新文化会館基本構想（素案）資料P35に、大ホール+多目的ホール（兼リハーサル室）の構想がある。また、基本構想の中では大ホールが600席～1,000席と、大きな幅がある。これに関してはどう思うか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少して行く中で、大きな公演を呼ぶことは予算的にも厳しい

委員	<p>と考える。人口に合せた興行が必要。文化政策の立場から考えても、あまり大きな興行を呼ぶ予算を下すことは出来ない。大きなホールを作っても興行を呼べないのでは意味がない。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・予算を出せないというのは理解できる。しかし、但馬で青少年育成や文化振興をしようと考えた際、800席程度で良いのかという思いがまだにある。資料P16<世代別×鑑賞ジャンル>の項目から分かるように、幅広く観賞されているジャンルがオーケストラである。そしてこのような公演は1,000人以上集まっているはずである。このような重要ジャンルを無視して、果して良いのだろうか。 ・また、吹奏楽に関わる身としては、800席では採算がとれず公演が出来ない。現在の1,118席でなんとか成り立っている状態のため、800席で従来の団体が公演を続けることは難しいのではないか。 ・加えて、他の市では800席が標準となっても、「但馬の豊岡」という土地の重要性を考えると1,000席が良いのではないかと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラといっても規模やコンセプトは多岐にわたる。オーケストラを運営する委員から、これからの時代にふさわしいホールについて意見をいただきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜でオーケストラを運営しているが、みなとみらいの2020席は埋まらない。また横浜市でも採算をとれないホールがある為、断って500席のホールで公演している。採算をとるために一日に複数公演することもある。 ・また、「小ホール」や「リハーサル室」についての議論に際して、ミューザ川崎の「音楽工房」というものを思い出した。名称によって先入観が出てくるのであって、「ホール」などの役割をこえた新たな名称を設定すれば、新たな議論になるのではないか。 ・横浜から依頼を受ける際の予算が、年々明らかに減ってきている。豊岡に関しても、自主運営におけるコストを考えて厳しくキャパを設定すべきだと思う。また、運営を工夫すれば改善は可能なため、そこも検討してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・焦点になるのは、吹奏楽。吹奏楽は大きなキャパが必要。現在、神戸などの大都市でもオーケストラで集客するのは難しい。神戸では、700席ながらもクオリティを高めたホールを新たな拠点として作り、息を延ばすという方針をとっている。地方都市で、1,000席のホールをオーケストラで埋めるという方針は現実的ではない。

(3) 新文化会館整備基本構想スケジュール（案）について

- 基本構想策定までのスケジュールを説明【資料P42】

(4) 新文化会館整備基本構想（素案）について

- 新文化会館整備基本構想（素案）について、新しい文化会館の基本理念、機能や施設等について説明。【基本構想（素案）P33以降】
 - ・小規模ホールについては、多目的ホールという名称にすることで、多角的な使用をする想定をしている。既存の施設は演劇に寄ったものが多いため、当ホールは音楽利用に寄ったものを想定している。
 - ・席数を1,000席にした場合、練習室が数室減る可能性もある。
 - ・大きなリハーサル室だけだと、経済的に現実的でない。
 - ・リハーサル室を小ホール的に使う際は、楽屋として既存の部屋を転用する想定。

【質疑応答・意見交換】

発言者	意見等
委員 委員長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・運営主体や芸術監督に関しては、今回の構想には書かないのか。 ・基本構想では記載しない。 ・今度専門職大学が開学する。アートマネジメントのトッププロが30人程度豊岡に住むという状態になり、前提条件が変わるという認識を持ってもらいたい。 ・さらには、自動運転や顔認証といった新技術によって社会が変わっていく可能性も踏まえて建物を造らなければならない。将来そのようなものに対応することも出来るように考えておかなければならないのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今後2週間程度、質疑応答を受けつける期間を設ける。配布した意見用紙に記入し、FAXもしくはメール等で事務局に送っていただきたい。

(5) その他〔藤野委員長〕

豊岡は専門職大学の開学に伴い、全国から非常に重要な人材が集まると考えている。本ホール建設に大きな責任を感じる。

4 その他〔事務局〕

次回の委員会、平成31年3月18日(月)午後1時30分から市役所の庁議室で開催

5 閉会〔田村副委員長〕